

〈解答〉

① (1) $512\pi \text{ cm}^3$ (2) $360\pi \text{ cm}^2$

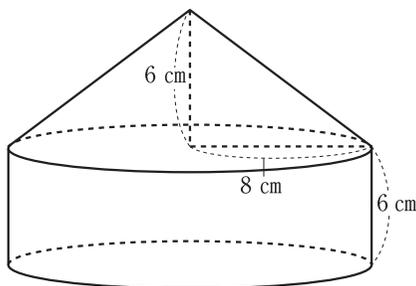
② (1) ア DF イ 30 ウ 75 エ 2組の辺とその間の角がそれぞれ等しい

(2) $\frac{1}{4}$ 倍

配点 ①②(2)各2点, ②(1)各1点 10点満点

〈解説〉

① (1) 辺ABを軸として1回転させてできる立体は、下の図のように、半径8 cmの円を底面とする、高さ6 cmの円柱の上に、半径8 cmの円を底面とする、高さ6 cmの円錐がのった立体になる。



円柱の体積は、

$$\pi \times 8^2 \times 6 = 384\pi \text{ [cm}^3\text{]}$$

円錐の体積は

$$\frac{1}{3} \times \pi \times 8^2 \times 6 = 128\pi \text{ [cm}^3\text{]}$$

なので、求める立体の体積は

$$384\pi + 128\pi = 512\pi \text{ [cm}^3\text{]}$$

(2) 辺AD, BCを延長した右の図において、

$$AE = DC$$

$$\angle AED = \angle DCF$$

AB // DCより

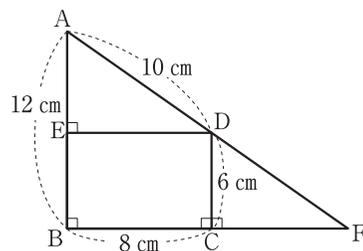
$$\angle EAD = \angle CDF$$

なので、

$$\triangle ADE \cong \triangle DFC$$

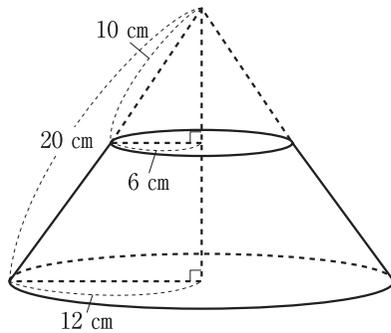
よって、

$$DF = 10\text{cm}$$



である。このことを利用すると、辺BCを軸として1回転させてできる立体は、辺

BCを縦向きにすると、下の図のような、円錐の上半分を切り離した立体（円錐台という）になる。



円錐の側面積は「 $\pi \times$ 母線 \times 底面の半径」で求めることができ、切り離された円錐は、底面の半径が6 cm、母線の長さが10 cmなので、側面積は

$$\pi \times 10 \times 6 = 60\pi \text{ [cm}^2\text{]}$$

である。また、切り離す前の円錐は、底面の半径が12 cm、母線の長さが20 cmなので、側面積は

$$\pi \times 20 \times 12 = 240\pi \text{ [cm}^2\text{]}$$

である。また、半径6 cm、12 cmの円の面積はそれぞれ

$$\pi \times 6^2 = 36\pi \text{ [cm}^2\text{]} \quad \pi \times 12^2 = 144\pi \text{ [cm}^2\text{]}$$

なので、求める立体の表面積は

$$(240\pi - 60\pi) + 36\pi + 144\pi = 360\pi \text{ [cm}^2\text{]}$$

② (1) [証明]

$\triangle AEC$ と $\triangle EDF$ において、

正三角形BCE, CDFの1辺は正方形ABCDの

1辺と等しいので、

$$EC = \boxed{\text{ア}} \quad DF \quad \dots \text{①}$$

$$\text{ここで、} \angle ABE = \angle ECD = \boxed{\text{イ}} \quad 30^\circ \quad \dots \text{②}$$

$$BA = BE = CE = CD \quad \dots \text{③}$$

②, ③より、 $\triangle BAE$ と $\triangle CED$ は、合同な二等辺三角形となり、

$$AE = ED \quad \dots \text{④}$$

$$\angle AEB = \angle EDC = \boxed{\text{ウ}} \quad 75^\circ \quad \dots \text{⑤}$$

⑤より、 $\angle AEC = \angle AEB + \angle BEC$

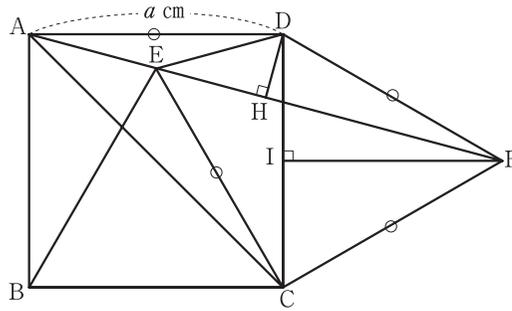
$$= \angle EDC + \angle CDF = \angle EDF \quad \dots \text{⑥}$$

①, ④, ⑥より、

$\boxed{\text{エ}} \quad 2$ 組の辺とその間の角がそれぞれ等しいので、

$$\triangle AEC \equiv \triangle EDF$$

(2) 正方形ABCD, 正三角形BCE, CDFの1辺の長さを a [cm] とし、次頁の図のように、頂点Fから辺CDに垂線FIを引く。



辺ADを底辺としたときの $\triangle ADF$ の高さであるDIの長さは

$$DI = \frac{1}{2} a \text{ [cm]}$$

なので、

$$\begin{aligned} \triangle ADF &= \frac{1}{2} \times a \times \frac{1}{2} a \\ &= \frac{1}{4} a^2 \text{ [cm}^2\text{]} \end{aligned}$$

$\triangle ADF$ は $AD = DF$ の二等辺三角形なので、点Hは辺AFの midpointである。よって、

$$\begin{aligned} \triangle ADH &= \frac{1}{2} \times \triangle ADF \\ &= \frac{1}{2} \times \frac{1}{4} a^2 \\ &= \frac{1}{8} a^2 \text{ [cm}^2\text{]} \end{aligned}$$

$\triangle CEF$ は、

$$\begin{aligned} CE &= CF = a \text{ [cm]} \\ \angle ECF &= \angle ECD + \angle DCF \\ &= 30^\circ + 60^\circ \\ &= 90^\circ \end{aligned}$$

の直角二等辺三角形なので、

$$\begin{aligned} \triangle CEF &= \frac{1}{2} \times a \times a \\ &= \frac{1}{2} a^2 \text{ [cm}^2\text{]} \end{aligned}$$

以上より、 $\triangle ADH$ の面積は $\triangle CEF$ の面積の

$$\frac{1}{8} a^2 \div \frac{1}{2} a^2 = \frac{1}{4} \text{ [倍]}$$